

August 14, 2020

【前日の為替概況】ドル円 107.05 円まで続伸、米 10 年債利回りが 0.7257%まで上昇

13日のニューヨーク外国為替市場でドル円はほぼ横ばい。終値は106.93円と前営業日NY終値(106.91円)と比べて2銭程度のドル高水準。前週分の米新規失業保険申請件数が96.3万件と予想の112.0万件より強い数字となり、3月下旬以来初めて100万件を割り込んだことが分かると、米労働市場の緩やかな回復が示されたとして、米長期金利の上昇とともに円売り・ドル買いが先行した。低調な米30年債入札やアップルの大型起債を受けて米長期金利が上昇幅を拡大するとドル買いが活発化し、107.05円まで上昇した。トランプ米大統領は「私のおかげでドルが強くなり、2期目にはさらにドルが強くなる」などと述べたが、相場の反応は限られた。

ユーロドルは続伸。終値は1.1814ドルと前営業日NY終値(1.1784ドル)と比べて0.0030ドル程度のユーロ高水準。英国の欧州連合(EU)離脱後の貿易交渉を巡り、マーチン・アイルランド首相が「ジョンソン英首相との次回会談で着地点に到達できると思う」と述べ、楽観的な見通しを示すとユーロやポンドに買いが先行し1.1864ドルと日通し高値を付けた。

米30年債入札が「不調だった」と受け止められたほか、アップルの大型起債が伝わると米10年債利回りが一時0.7257%前後へ上昇。米金利上昇に伴うドル買い戻しが入り、ユーロドルは1.1794ドル付近まで下押しした。ポンドドルも1.3124ドルまで上昇した後、1.3045ドル付近まで反落。

ユーロ円は3日続伸。終値は126.32円と前営業日NY終値(125.98円)と比べて34銭程度のユーロ高水準。英国のEU離脱を巡る先行き不透明感の後退などが相場の押し上げ要因となり、126.76円まで上昇したが、ユーロドルの伸び悩みなどが相場の重しとなり、126.14円付近まで上げ幅を縮めた。

メキシコペソは堅調。WTI原油先物価格は下落したものの、メキシコの通貨ペソは買いが優勢だった。ドルペソは3時前に一時22.1360ペソ、ペソ円は4.83円までペソ高に振れた。

メキシコ中銀は、市場予想通り政策金利を現行の5.00%から0.50%引き下げて4.50%にすることを決めた。利下げは10会合連続で、2016年9月以来の低い水準となったが、理事会メンバーの1人が0.25%の利下げを主張し、利下げペースが鈍化する兆しが示された。声明では今後の政策運営について「利下げ余地はインフレとインフレ期待の動向次第」との見解が示された。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米国債償還や米中通商合意検証を控えて伸び悩む展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、リスクオフ(NY株安・債券安)により底堅い展開が予想されるものの、15日前後の米国債償還・利払いの円転玉や15日前後に予定されている米中第一段階通商合意の検証を控えて上値は限定的か。

NY株安・債券安(金利上昇)のリスクオフのドル高&円高に、金利上昇のドル高が加わるので、「円高」より「ドル高」が優勢となり、ドル円は上昇する。

8時半から予定されているロウ豪準備銀行(RBA)総裁の議会証言では、7月の失業率が22年ぶりの高水準7.5%となったことや豪ドル相場の上昇基調に対する言及に要注目となる。

11時発表の7月中国鉱工業生産(予想:前年比+5.1%)と7月中国小売売上高(予想:前年比+0.1%)は、6月の鉱工業生産(+4.8%)と小売売上高(-1.8%)、5月の鉱工業生産(+4.4%)と小売売上高(-2.8%)からの改善が見込まれている。予想通りならば、リスクオン地合いとなるが、米中対立が激化しつつあること、明日予定されているライトハイザー米通商代表部(USTR)代表と劉鶴中国副首相による米中第一段階通商合意の実施状況の検証を控えて、予断を許さない状況が続くことになる。通商合意の検証では、米国産農産物購入やドル・人民元相場、国家安全保障上の配慮を理由としたティックトックやウィーチャットとの取引禁止の米大統領令などが議題になる、と報じられている。新型コロナウイルスなどで、中国による米国産エネルギー・農産物の購入は目標に達していないことや米大統領令に関して議論が紛糾した場合、米中対立が激化する可能性に要警戒となる。

また、4月以降発表が遅れている米財務省の為替報告書では、昨年8月5日に発表されたような中国の為替操作国認定への警戒感も高まっている。

トランプ米大統領は、議会民主党との新型コロナウイルスの追加経済対策を巡る協議が合意に至らなかったことで、4つの大統領令に署名した。ムニューシン財務長官は、協議が合意に至らない可能性があること示唆し、依然として協議が難航していることが示唆されている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 13:30 ◇ 6月第三次産業活動指数（予想：前月比6.4%）

<海外>

- 08:30 ◎ ロウ豪準備銀行（RBA）総裁、議会証言
- 11:00 ◎ 7月中国鉱工業生産（予想：前年比5.1%）
- 11:00 ◎ 7月中国小売売上高（予想：前年比0.1%）
- 15:30 ◎ 7月インド卸売物価指数（WPI、予想：前年比▲1.00%）
- 15:30 ◇ 7月スイス生産者輸入価格
- 15:45 ◇ 7月仏消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比0.4%／前年比0.8%）
- 16:00 ◇ 6月トルコ経常収支（予想：28.3億ドルの赤字）
- 16:00 ◇ 6月トルコ鉱工業生産（予想：前月比4.7%）
- 17:30 ◎ 4-6月期香港域内総生産（GDP）確定値（予想：前期比▲0.1%／前年同期比▲9.0%）
- 18:00 ◇ 6月ユーロ圏貿易収支（予想：季節調整前126億ユーロの黒字／季節調整済145億ユーロの黒字）
- 18:00 ☆ 4-6月期ユーロ圏GDP改定値（予想：前期比▲12.1%／前年比▲15.0%）
- 21:30 ◇ 6月カナダ製造業出荷（予想：前月比16.4%）
- 21:30 ☆ 7月米小売売上高（予想：前月比1.9%／自動車を除く前月比1.3%）
- 21:30 ◇ 4-6月期米非農業部門労働生産性・速報値（予想：前期比1.5%）
- 21:30 ☆ 4-6月期米単位労働コスト・速報値（予想：前期比6.2%）
- 22:15 ◎ 7月米鉱工業生産指数（予想：前月比3.0%）
 - ◇ 設備稼働率（予想：70.3%）
- 23:00 ◇ 6月米企業在庫（予想：前月比▲1.2%）
- 23:00 ◎ 8月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、速報値、予想：72.0）
- 23:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

13日 06:30 ムニューシン米財務長官
「ペロシ米下院議長(米民主党)は経済対策について交渉しないだろう」

13日 07:07 カプラン米ダラス連銀総裁
「米経済にとってハードロックダウンが正しい答えだとは思わない」

13日 07:48 欧州連合(EU)当局者
「EUと米国は、長引く貿易摩擦要因の解決に向けた交渉努力を強化すべき」
「ホーガン欧州委員(通商担当)はライトハイザーUSTR代表との積極的な交渉を継続するだろう」

13日 09:54 バスカンド NZ 準備銀行(RBNZ)副総裁
「ウイルス感染の再開やロックダウンがあった場合、銀行は追加刺激策を検討」

13日 15:37 中国人民解放軍
「最近の台湾近辺での訓練は主権を守るために必要な行動」

13日 17:38 国際エネルギー機関(IEA)
「2020年の原油需要予測は日量平均 9210 万バレルから 9190 万バレルへ下方修正」
「2021年の原油需要予測は日量平均 9740 万バレルから 9710 万バレルへ下方修正」

13日 17:59 エルドアン・トルコ大統領
「東地中海の問題を解決するのは対話と交渉であり、トルコは冒険を追い求めない」
「ギリシャとキプロスはトルコの主権を奪おうとしている」

13日 18:03 中国商務副長官
「新型コロナウイルスと米国の輸出規制が、中国が米国製品の購入をすることにネガティブな影響を与えている」
「米国が中国企業に対しての制限や、差別的な行動を止めることを望んでいる」

13日 21:03 トランプ米大統領
「私がドルを強くさせ、2期目にはさらにドルは強くなるだろう」

14日 07:11
「中国は米農家にこれまでで最大の注文をしている」
「TIKTOKを巡る合意は米国にとって大いに有益でなけ

ればならない」
「中国に対する態度は友好的ではない」

13日 22:44 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長
「物事は正しい方向に進んでいる」
「さまざまなセクターが大幅な回復を示している」
「(米経済対策の)交渉を待っている」
「第3四半期の20%成長や非常に強い2021年の成長を予想」

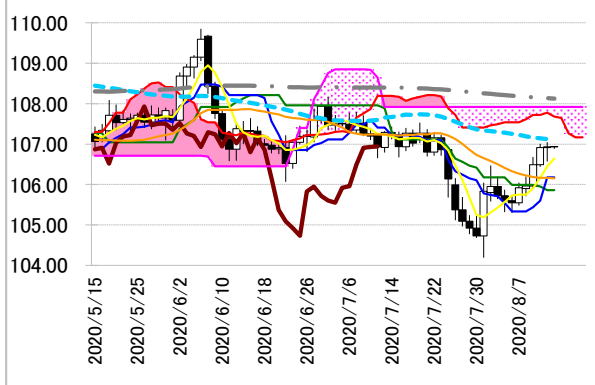
13日 23:07 マーチン・アイルランド首相
「次の英首相との会談で英・EU離脱(ブレグジット)後の着地点に到達できると思う」

13日 23:30 フロスト英・欧州連合(EU)担当交渉官
「9月中にもEUとの交渉合意へ」

14日 00:35 ジョンソン英首相
「『関税・割り当てなし』の合意がEU(欧州連合)にとって最善と確信している」
「交渉に取り掛かる」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

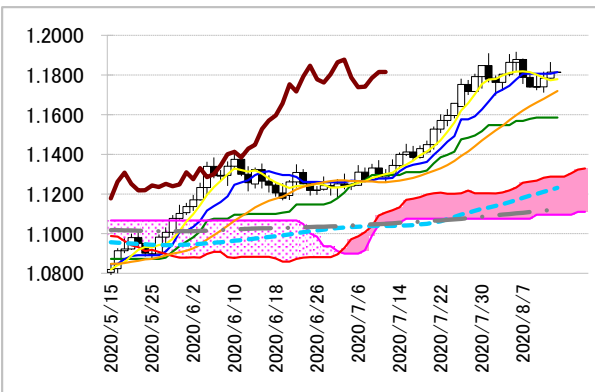


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開。しかし、5手連続陽線で均衡表が好転し、転換線を上回っていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	107.68(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	106.93
サポート1	106.18(日足一目均衡表・転換線)
サポート2	105.86(日足一目均衡表・基準線)

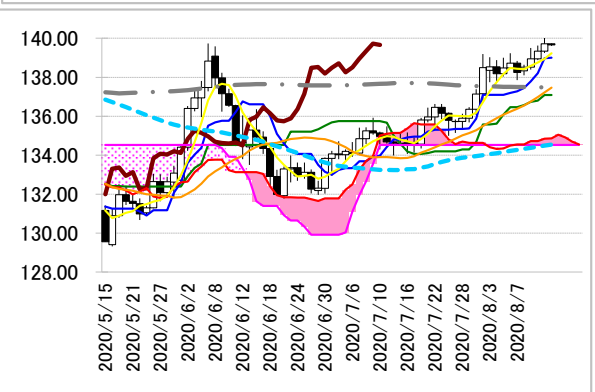


<ユーロドル＝8/12安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。三川宵の明星で転換線を下回ったことで、ダブルトップの可能性が高まりつつあるものの、ネックラインの手前で3手連続陽線で反発し、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、8月12日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1916(8/6高値)
前日終値	1.1814
サポート1	1.1711(8/12安値)

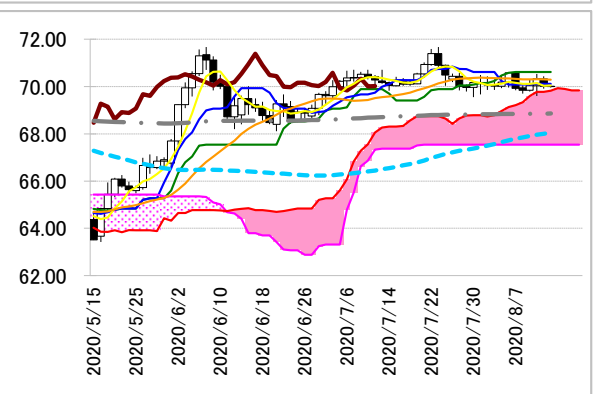


<ポンド円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。4手連続陽線で転換線を上回っていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	140.21(8/13高値)
前日終値	139.73
サポート1	139.01(日足一目均衡表・転換線)



<NZドル円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。均衡表は逆転し、転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	70.61(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	70.01
サポート1	69.82(日足一目均衡表・雲の上限)

